

■多田元吉 茶業近代化の功労者。大政奉還で幕臣に従い静岡に行つて、茶業知るや成果、新政府に採用され、全国に広げた。

ただもときち

シホ 朴追放・1829＝ 上総国富津で、船具・質屋など手広く営む網元の家の長男に生まれる。

大塩平八郎乱1837＝ 8歳：

適塾ホヰン・ 1838＝ 9歳：

阿部正弘首座1845＝16歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1847＝18歳：

剣・槍の使い手になり、

ペリー来航・ 1853＝24歳：

江戸に出て千葉周作の道場に入る。

松下村塾・ ・ 1856＝27歳：

桜田門外変・ 1860＝31歳： 神奈川奉行下番世話助の職を得、

薩摩藩士密航1865＝36歳：

薩長同盟・ ・ 1866＝37歳： 長州出兵にも参加、

大政奉還・ ・ 1867＝38歳： 蝦夷警備部隊の一員として箱館に出るも江戸に呼び戻されて警備するうち、 大政奉還となり、駿府に封じられた徳川家達に従つて、他の幕臣とともに静岡に移住。

明治維新・ ・ 1868＝39歳：

戊辰戦争終・ 1869＝40歳： \*徳川家から丸子の山林5町歩を譲られると、初めて開墾に従事し、茶の栽培を始め、

明治6年政変 1873＝44歳：

佐賀の乱・ ・ 1874＝45歳： この年までに、50町歩にまで拡張されるほど成功を収め、明治新政府にも知られ、

初の民間工場1875＝46歳： \*勸業政策を推進する大久保利通が外貨獲得品目に生糸とともに茶を選び、内務省勸業寮官員に徴されて、  
三つの内乱・ 1876＝47歳： フィラデルフィア万博の日本茶販促で出張予定のところ、インドで紅茶生産が盛んとの情報があつて急遽変更、通訳の梅津精一・機械専門家の石河正竜とともに横浜を出発し、日本人初のダージリン入り。

西南戦争・ ・ 1877＝48歳： 帰国するや、インド式紅茶作りの指導のため、高知県に出張命が出、第一回内国勸業博審査官となり、現地で模写した図をもとに製作された揉捻機も展示される。以後、全国各地を飛び回る間、

大久保暗殺・ 1878＝49歳： 「紅茶製法纂要」「紅茶説」を刊行、

沖縄県編入・ 1879＝50歳： 突然降格されるも、茶業指導に励み、

・ ・ ・ ・ ・ 1880＝51歳： \*勸農局製造課配属となり、茶の試験園設置のため、各地に出張。

明治14年政変1881＝52歳： 第2回内国勸業博審査官、

新体詩抄・ ・ 1882＝53歳： 籠焙炉を発明して発表。

岩倉具視没・ 1883＝54歳：

内閣発足・ ・ 1885＝56歳： 製茶用搓揉器を発明。農務局樹芸課に異動。

国民之友始・ 1887＝58歳： 物産品評会審査。茶の講話などで各地に出張。

帝国憲法発布1889＝60歳：

帝国議会始・ 1890＝61歳： 第3回内国勸業博審査官。藍綬褒章を受章して、

大津事件・ ・ 1891＝62歳： \*退職。

大本教・ ・ ・ 1892＝63歳：

日清戦争始・ 1894＝65歳： 静岡県中遠農会の名誉会員となり、

日清戦争終・ 1895＝66歳： 関東・関西・九州の茶業団体から感謝状を贈られ、第4回内国勸業博の審査官もつとめて、

白馬会・ ・ ・ 1896＝67歳： 丸子の自宅で、没した。